【 事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270500368		
法人名	特定非営利活動法人トライアングル・サークル		
事業所名	グループホームたんぽぽの家	ユニット名	
所在地	長崎県大村市大川田町４２４－２　１階		
自己評価作成日	2025年　2月　20日	評価結果市町村受理日	2025年　4月　16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true

【 評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院４－３－７　フローラ薬院２Ｆ		
訪問調査日	2025年　3月　26日	評価確定日	2025年　4月　8日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所系列の「保育所」「学童」「児童発達支援事業所」「児童ディサービス」が隣接しており、子どもたちの姿を目にすることが出来る。また、駅・バス停・郵便局・銀行・スーパーが徒歩で行ける距離にあり、利便性が高い。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームたんぽぽの家”は開設から23年を迎えている。2020年９月に大村市大川田町に新築移転しており、2階建ての1階が“たんぽぽの家”、2階に“たんぽぽ憩いの家”があり、隣接する系列事業所と助け合いながら日々の運営（ケア）が行われている。開設者である理事長等の思いを引き継ぎ、長く勤務する職員も複数おられ、2024年4月から就任している管理者も勤務年数が長い職員のお1人である。管理者は３つのグループホームの管理者を兼任し、それぞれのグループホームには「次長」体制を作り、密に連携を取るように努めている。日々の生活では愛用のラジカセで歌を聞かれる方、生け花用の花器と剣山等を持ち込まれて生け花を楽しまれる方、縫い物が得意な方は雑巾作りや“ほつれ縫い”をしてくださる方もおられる。洗濯物たたみや新聞折りをされたり、一緒におやつ作りや干し柿を作り、カラオケなども楽しまれている。大村公園の桜や菖蒲の花見、かやぜのイルミネーション見物、野岳湖公園にお連れしており、季節を感じるひと時となっている。窓から保育所や学童の子ども達の笑い声を聞くことができ、ホームに遊びに来てくださる。今後も家族や地域の方々との交流の機会を作り、日々の楽しみや外出の機会を増やしていきたいと考えている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の２/３くらいの
			3. 利用者の１/３くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に１回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の２/３くらいと
			3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている　（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の２/３くらいが
			3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の２/３くらいが
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に、理念・基本姿勢を唱和し気持ちを引き締め、カンファレンスの際に理念を念頭にケアプランに反映させている。	1階と2階の２つのグループホームは同じ管理者であり、「ゆっくりと自分らしく共に暮らす」という同じ理念を大切にされている。「たんぽぽの家」は専任の職員も多く、2024年４月に就任した管理者とともに、次長、ケアマネ、職員と話し合い、日々のケアに活かすように努めており、行事がお好きで、ホーム内で過ごすことを好まれるご利用者の方々の楽しみ（行事等）や役割作りの検討を続けている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、サービス知見者・民生委員の方と情報交換を行っている。	近隣へのご挨拶を行い、馴染みの関係になってきている。学童や保育所の子ども達と交流があり、敬老の日は学童保育の子ども達が手作りのお祝い品を持って来てくださる。ハロウィンの時はご利用者も仮装し、園児・学童の子ども達にお菓子を手渡している。今後も地域の一員として町内行事、廃品回収等に参加し、交流を深めていければと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方を通じて、地域の方々に気軽に見学に来ていただきたいと、お話ししている。見学していただくことで、認知症への理解や支援をお願いしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者様の現状・行事報告・事故報告をしている。その中でご意見を反映させ、サービス向上に活かせるように努めている。	2階の「グループホームたんぽぽ憩いの家」とともに、対面で運営推進会議を開催しており、2025年4月以降は3つ目の系列ホームも一緒に開催予定である。ホームそれぞれの日々の暮らしぶり、行事、災害対策（避難訓練）、事故等とともに、外部評価結果も報告し、日々の取組みの感想やアドバイスを頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実績や取り組みを伝えている。	2024年４月から新管理者が就任していることや、2025年４月に開設した3つ目のグループホームに関する情報交換を市役所の方々と続けてこられた。日々の業務ではケアマネ等が市役所を訪問して情報交換しており、運営推進会議の際に市の方からアドバイスを頂き、市の方が「マスク」などを持参してくださった。コロナの感染状況に応じて、年に１回、市の方と介護相談員の訪問があり、ご利用者と話しをされるとともに、訪問後にアドバイスを頂いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	２施設合同で3ヶ月に１回身体拘束適正化委員会を開催し、年１回以上は身体拘束についての勉強会も開催している。	「身体拘束はしない」方針であり、入居の際に「入居で考えられる危険性に関しての説明書」という書面で説明し、同意を頂いている。職員の寄り添いもあり、穏やかに過ごされる方が多く、感情が不安定になられる場合は原因を把握し、ご本人の思いを大切にしたケアを続けている。リスクマネジメント委員会で「身体拘束廃止委員会」「虐待防止委員会」を開催し、虐待の種類、介護現場での身体拘束（3ロック）について更なる勉強をしている。年1回「自己チェックシート」で言動の振り返りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	２施設合同で3ヶ月に１回虐待防止適正化委員会を開催し、年１回以上はについての勉強会も開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすい説明を心がけている。料金改定の際には、家族会にて報告・説明し理解・納得を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見箱を設置している。また、面会時・ケアプラン変更時にご意見・ご要望をお伺いしている。家族会の際に、アンケートもとり運営に反映するようにしている。	家族の方々との面会時や電話等とともに、暮らしぶり等を“たんぽぽだより”で報告し、担当職員がメッセージを手書きしている。電話等で密に情報交換する機会を作り、家族への心配りを忘れず、思いや意向の把握に努めている。日々のケア内容の要望を伺い、個別に最適なケアを検討させて頂いている。	2024年４月から新しい管理者となっており、今後更に全ての家族と面談し、日々の健康状態、暮らしぶり等を報告するとともに、家族の方々の思いや不安、要望等を共有していきたいと考えている。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や定例会、または日々の業務中などで職員から意見・提案を聞いている。当法人で職員にアンケートもとり、運営に反映している	1階と2階のグループホームの管理者が同じ方で、職員同士の協力体制もあり、更なる結束に繋げている。適宜「異動」もあり、職員同士の交流ができる環境にある。長く勤務する職員もおられ、管理者・次長・ケアマネを中心に職員個々の意見を伝え合い、最適な改善策の検討を続けている。理事長等も職員の頑張りを高く評価しており、人員体制も理事長等と共有し、対策の検討に繋げてくださっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している職員に対し、年に2回の特定処遇手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが希望する研修や、受講の必要な研修に関しては、積極的に参加するよう促している。また、施設内でも研修を行っている。休暇の職員が参加した場合は、時間給が支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、運営推進会議でサービス知見者の方との交流で、そこで得た情報をスタッフに伝えケアの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入に際し、本人様の意向や意見を聞き取り、それに沿いながら無理をされないよう、職員との信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前から連絡を取り合っている。契約時にご意見やご要望をお聞きし、サービスにつなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族から得た情報や意見をもとに職員と話し合い、適切なサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながら、入居者様ご自身が出来る事を、ご自身でしていただけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況をお伝えし、変わったことがあった際には、電話や直接話して情報交換を密におこないながら関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話等の連絡の機会を、設けるようにしている。	家族との面会を楽しまれており、食事介助をしてくださる方もおられる。町内の近所の方や同郷の方から電話があり、ご利用者全ての方々に手作りの小物入れをくださった方もおられる。馴染みの床屋に家族と行かれる方、家族と馴染みの場所で外食された方もおられ、職員とのドライブで母校が見えて話が盛り上がった方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮し、テーブルの席を配慮している。健康面を考慮しながら、基本全員参加でレクリエーションをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様と連絡を取り、近況を尋ね、必要に応じてを支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で得た本人様の思いや意向を聞いた際は職員間で情報共有したり、意思表示が困難な場合はその方の表情をみながらお気持ちを把握するよう努めている。	「私の暮らし方シート」に生活歴等を記録するとともに、好きな色、得意な事などを記録している。日々の生活の中で要望や思いを引き出し、表情や行動等から思いの把握に努めており、日々の役割や楽しみを増やすように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から得た情報や生活歴などを全職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムや病気があるため、それぞれの違いを把握するように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族・職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	心身状況や生活習慣、要望等を踏まえ、主治医や看護師からのアドバイスを頂き、介護計画を作成している。洗濯物たたみ、縫い物、花の水やり、歩行訓練等も盛り込まれている。子ども好きな方もおられ、ホームで一緒に子ども達と過ごす機会もある。体調の変動に応じて介護計画の見直しをしており、今後も「転倒」「誤薬」予防に繋げていく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態の変化は、個々の介護計画に沿ってケアの記録に記載し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種と連携し通院や送迎等、入居者様に合った支援ややサービスが受けられるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の保育園・学童以外の関りはない		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診に来ていただき、看護職員が立ち会い、報告や指示受けを行っている。	希望の医療機関に受診できるが、往診体制がある事で、協力医療機関に変更される方がほとんどである。内科・皮膚科・歯科医師・歯科衛生士の訪問があり、通院時は看護師や管理者が介助しており、往診時に主治医と情報交換（会議）している。家族が受診された場合は帰ってこられた際に家族と情報共有し、ホームで対応した場合は電話で報告している。24時間体制で看護師と管理者に相談でき、職員の安心になっている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げており、日々の機能訓練で身体機能の維持向上に努めている。透析を受けている方もおられ、日々の体調管理とともに食事・水分等の管理も続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で入居者様の体調の変化や気づきがある場合は、管理者・看護職員に報告・相談をしている。そのうえで、かかりつけ医に報告や受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になられた場合は、かかりつけ医に情報提供者の依頼と介護サマリーを作成し入院先に提出している。入院中も情報交換を行いながら、退院後の受け入れなども見据えて、連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の際に説明を行っている。	入居時と体調変化時に「今後のこと」や「医療内容の要望」等の意思確認を続けている。指針の定義に基づいて行っており、①自己決定と尊厳を守る ②医師・看護師との体制とご家族様との連携をとる ③設備整備する ④実施と内容の共有と状態に合わせたサービスの提供。職種ごとの役割や連携を行う ⑤看取りに関する勉強会を行うことを継続している。「最期までホームで」と希望される方が全員で、家族と協力して誠心誠意のケアが行われている。24時間体制で往診を受けられ、ホームの看護師に相談できる。終末期は医師からの説明があり、必要に応じて点滴や酸素療法も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会、AED操作・心臓マッサージの講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルにて、避難訓練や避難経路の確認を消防署の指導のもとで定期的に行っている。また火災を未然に防ぐ為、毎日の掃除の時にコンセントの差し込み・コードの確認を行っている。	2020年9月に移転した際は２階の「たんぽぽ憩いの家」・隣接するデイサービス・サ高住・学童合同と日中想定の避難訓練を行った。2022年度以降は２階のホームと合同で夜間想定の自主訓練を続けている。災害に備えて飲料水や非常食、自家発電機、防災ラジオ等を準備し、福祉介護避難所の指定も受けている。BCP（事業継続計画）も作成しており、災害時等は避難所の「旗」を利用し、地域貢献を行うとともに、次回はご利用者の方々と一緒にできる訓練を行う予定である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、利用者が穏やかに生活できるように対応や言葉がけに注意している。	職員はご利用者それぞれの生活歴や性格を把握し、ご利用者に対して優しい声かけを続けている。排泄ケア等の誘導時も声の大きさに注意し、自尊心を傷つけないように配慮している。「自己チェックシート」も活用し、言動の振り返りを行っている。言葉遣いが強くなる際は、職員間で話し合いができるように努めている。	「自己チェックシート」を年１回行い、言動の振り返りをしており、今後は更に振り返りを行った結果で「改善すべき内容」を共有し、今後の取組み（研修や面談等）に繋げていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が威圧的でなく、入居者が自分の思いや意向を話しやすくなるように、言葉かけや接し方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分のリズムで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容が出来ない方は、職員が支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	カレーや丼ものが嫌いな方には、白米とおかずを別に提供している。出来る方に下膳・テーブル拭きをしていただいている。	朝はホームで調理している。昼食、夕食の副食は系列の施設で作り、ご飯はホームで炊いている。夏は流しそうめん、夏祭りでは屋台メニューをバイキング形式、お正月は郷土食の“湯かけくじら”等を楽しまれている。地域の方から野菜の差し入れもあり、職員持参のツワ等の皮むき、梅干し作り、干し柿作り、おはぎ作り等をしてくださり、パンの日やお寿司（いなり寿司、巻き寿司）の出前を取る日もある。外食支援も行われており、可能な方はメニューを選んでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や咀しゃく、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し把握している。状態に応じて食事形態を変更し、栄養が摂れてない場合は栄養補助食品を、水分が足りない時はジュース等を提供している。透析治療の方には一日の水分量を計算し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方に合わせた口腔ケアを実施している。訪問口腔ケアを依頼し指導をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けを行いトイレにお連れしている。	車いす対応のトイレを含め、２つのトイレがあり、布の下着を使用し排泄が自立している方も複数おられる。体調や心理面、経済面に配慮した検討を続けており、パッドの必要性・大きさを検討している。必要に応じて個別誘導しており、パッド汚染が減った方もおられる。オムツを使用する方もおられ、褥瘡にならないよう、皮膚の状況も観察しながら、個別のオムツ交換と保清を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を実施し、定期的にヨーグルト等の乳製品を提供している。便秘の方は水分を多めに摂ってもらうようにしたり、下剤を服用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の日程は施設で決めているが、ご本人様に入るかどうかを聞くようにしている。また、体調に合わせて対応している。	お風呂好きな方ばかりで、湯船にゆっくり浸かり、職員との会話を楽しまれている。笑い声や歌も聞かれ、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれており、シャワー浴の方も足浴の湯に柚子を浮かべている。皮膚の状態で個別にタオルやシャンプー・洗顔フォームを準備し、できる範囲を洗われている。リクライニングチェア等で２人介助でシャワー浴をする方もおられ、今後も湯舟に浸かれるように福祉用具の購入の検討を行う予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は、その方の希望に沿うように対応している。夜間帯は専用のオムツパッドを使用し安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケア記録アプリに薬の説明書があり、誰でもすぐに確認できるようになっている。薬変更時もその都度、申し送りノートに記録し共有している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや縫物、生け花・花瓶の水替えをしていただいている。お酒が好きな方には、行事の時にノンアルコールビールを提供し喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援・外食支援に努めている。季節ごとの行事にて外出をしている。	隣接する保育所の園児の姿が窓から見え、ホーム周辺の散歩の時に園児に手を振り合い、ホームに遊びに来てくださる。季節に応じて神社に初詣、大村公園の桜や菖蒲の花見、紅葉狩り（野岳湖）の後に外食（うどん、そば）、かやぜのイルミネーション見物などを楽しまれている。スーパーへの買い物支援、家族の病院受診の付き添い送迎支援等も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの買い物の希望があった時には、立替金を使用し購入している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限時はテレビ電話で対応したり、携帯電話をお持ちの方は、毎日ご家族様と連絡のやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お昼寝時、入眠しやすいようにブラインドを下げている。また、季節を感じてもらえるように、花や壁画を飾っている。一緒に作った梅干しや干し柿を見える所に置いている。	ホームは１階にあり、玄関入口のプランターの花の水やり等をされている。リビングは明るく開放感があり、ご利用者と季節の飾り付けを行い、職員が持参する自宅の花を、ご利用者が飾られている。ご利用者同士の団欒もあり、音楽を流すと皆さん自然に歌われており、カラオケも楽しまれている。トイレには炭の芳香剤を置き、適宜消毒や掃除、換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・居室にテーブルやソファーを設置し、過ごしたい場所ですごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物を持ってきていただいている。	居室ドアに表札をかけている。電動ベッドはホームの備品で、枕、毛布なども持ち込まれている。職員と一緒に洗濯物をたたみ、馴染みのタンスにしまわれたり、愛用のラジカセで歌を聞かれる方、お花が好きな方は生け花用の花器と剣山などを持ち込み、生け花を楽しまれている。家族の写真や遺影、CD、化粧品、携帯電話、ぬいぐるみ等を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かない。トイレとお風呂は表示している。廊下・トイレには手すりを設置。		